

研究協力校： 池田 中学校 池田 高等学校

平成 13 年度の成果と課題

研究推進体制、教師の意識について

中学校、高等学校と授業を公開し合うとともに、公開授業後には研究会を設け、よりよい連携づくりに励んだ。特にコミュニケーションを図ろうとする態度や意欲を継続的に育てていくことの大切さを確認することができた。普段の授業から、どのようにコミュニケーション能力を伸ばしていくのかをそれぞれの立場で考え、年間通して実践するとともに、その成果や課題を交流することで、共通の土台ができた。

生徒の実態について

【中】自分の考えや伝えたいことを積極的に表現したり、知りたい表現を調べたりする生徒が多くいる。また、学習したことを生活の場面でも活用する生徒の姿が育成できつつある。

【高】毎時間のペア活動と毎レッスン後のオーラルリプレゼンテーションにより、英語に親しむことができ、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度は育成された。

【共通課題】その場に応じた表現を選択する力が弱く、会話がひろがりにくい。あるテーマについて自分の考えを十分に表現できない。

研究テーマ

仲間と積極的にかかわりながら、  
自分の意見を英語で表現することのできる生徒の育成

平成 14 年度の具体的な取組内容

高等学校として

【具体的な目標と手だて】

- 1) 身近な話題について自分の考えを英語で表現できるようにするために、「書く」「読む」「聞く」「話す」の各活動を結びつける。
  - 2) 即興性のある会話ができるようにするために「話す活動」では、Timed-conversation を通して日常生活の場面を提供する。
  - 3) 「書く活動」でトピックについて自分の考えを書くことができるようにするために、個の必要に応じた語彙や表現を身に付けられるよう留意する。
  - 4) 主体的に学ぶ態度を身に付けるように、学習者中心の活動を設定する。
- 会話を録音した後、その会話を分析し、学んだ点学べていない点について、自ら気づき、意識する。エッセイのペアコレクションを通じて、お互いに学び合う力をつける。
- 自己評価を多く取り入れ、次の目標を設定し、意識して学習することができる力をつける。